

2016

思春期の子どもへの
家族の力とは？

～映画・ドラマ・アニメから学ぼう～

思春期の子ども困ったことは？

- ・気持ちの揺れやすさ(情緒不安定)
- ・不登校、ひきこもり
- ・体調不良、拒食症
- ・非行(反社会的行動)
- ・リストカット(自傷行為)
- ・いじめ

なんで困ったことをするのか？？？

本人が困っているから。

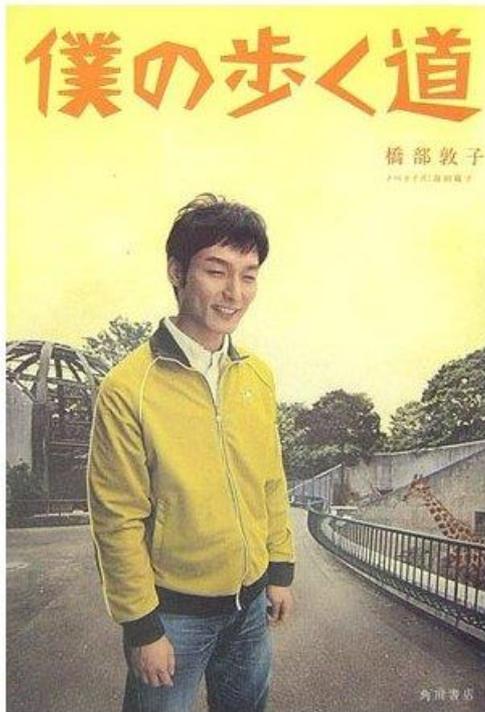


平成20年ドラマ 第4話



「おまえは医者になることだけを考えればいいんだ」
「それがおまえの幸せなんだ」

★スパルタ教育に必死に従う。
→本人のやる気(自発性)は？



平成18年ドラマ 第3話

「(クラスで1番になっても)次はもっとがんばりなさい」
「塾が終わってから聞くから早く塾に行く準備しなさい」

★一人の人間として認められているか(承認)?

のび太、
また0点とって！



野比

タケシ、また店番サボって！

HTV/3





告白

娘を殺された女教師の、命の授業が始まる 
DVD VIDEO

平成18年映画



「直くんは**良い子**。勉強だって運動だって」
「あの子はやればできる子なんです」

★「完ぺきな母親」の子育て
→「完ぺきな子ども」を演じなければならない(**演技性**)

スネちやま、ご褒美がます。



教室の

そうじを
ひとりで
やり
ました。

スネ
お夫
さん、
感心
ございます。



「100点取った。よくやったね！」

「100点取るほどがんばったんだね！」

思春期とは？

●時期

10代(10歳～18歳)

●特徴

心の独り立ち(親からの心理的自立)

同性の仲間との集団行動(ギャングエイジ)

→自分探し、自分づくり、自分らしさ(自己同一性の確立)

⇒親に抵抗する(反抗)！！！！

その時、家庭にどれだけ安心感と安全感があり、
ブレないか？



平成25年ドラマ

「彩花があのかの(私立の)制服着るの見てみたいなあ」

「お母さん、彩花のためを思って」

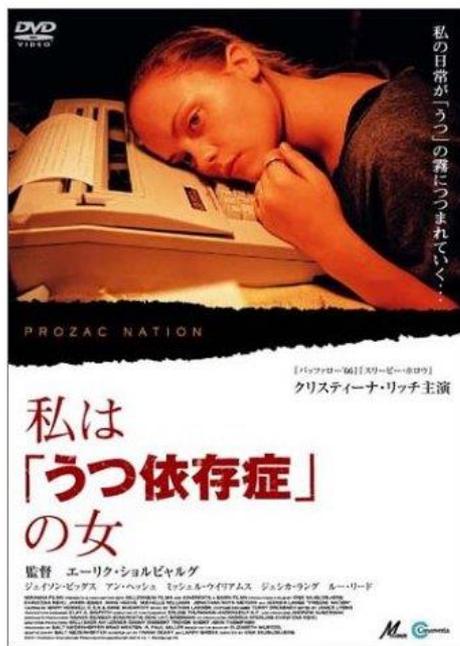
「うちは彩花が公立に行ってくれたから」

★言われた通りにやったのに肯定されない(自己否定感)

★親が**自分の人生**を生きている

親が自分の仕事や趣味、友人関係などで自分の世界を持っている。
何かに励んで楽しんでいる。

→過干渉にならない
背中を見せる(モデリング)



「私はあんたのペットじゃない！」

★親が教育熱心

→条件付きの愛情

→心のよりどころ(安全基地)は？

★子どもは「**良い子**」を演じる

→思春期になると？



平成26年ドラマ 第5話

「30年前に、あいつ(健一)は大学受験直前になって
絵描きになりたいと言い出したんだよ」

「(そこで)私は、あの子が美大へ行くために
こっそり書いてた絵を全部燃やしたんですよ」(過干渉)

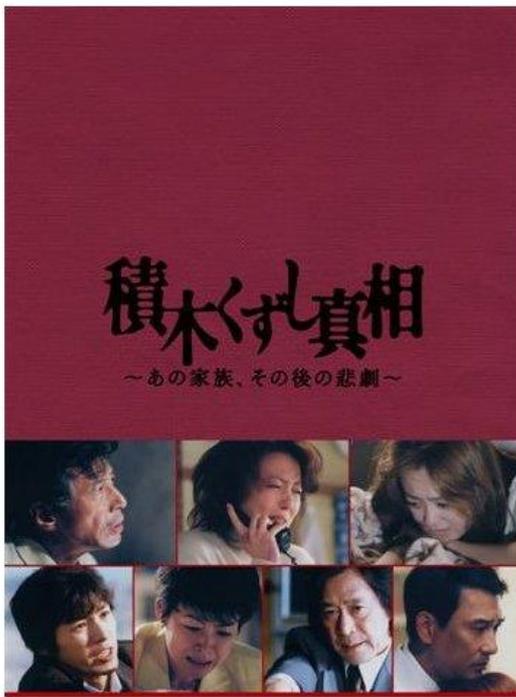
★本人の意思やプライバシー(自己同一性)を認めない

★本人を「大人」扱いする。

→家庭のルール作り

- 大人の自覚を持たせる。
- 本人に責任を取らせる。
- 親は責任をとらない。

「〇〇について、親として△△してほしい。
だけど、決めるのはあなた。
あなたが決めたことなら、結果がどう
なっても最低限のことは支えたいと思う」

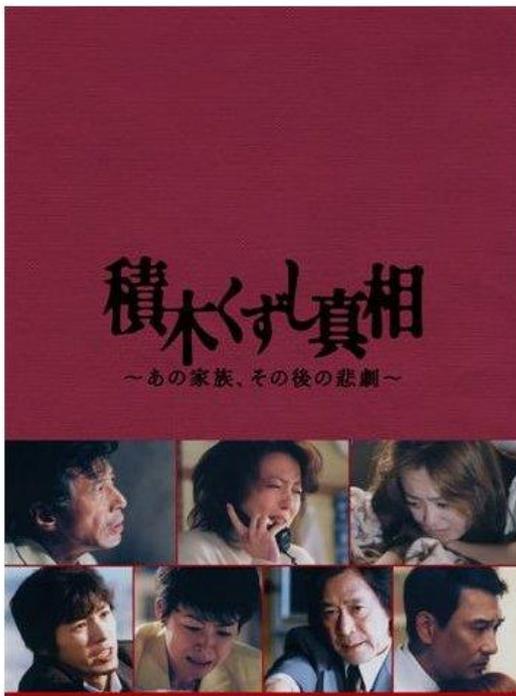


平成18年ドラマ
「積木くずし真相」



「産みたくないのに産んだんですから」

- ① 幼少期の入退院の繰り返し→情緒の問題(ホスピタリズム)
- ② 父親の不在→母親の心理的な負担
- ③ 両親の言い争いの板挟み(ダブルバインド)
- ④ 自分は大切にされていない感覚(自己否定)
→ 家族の絆という心のよりどころ(安全基地)がない

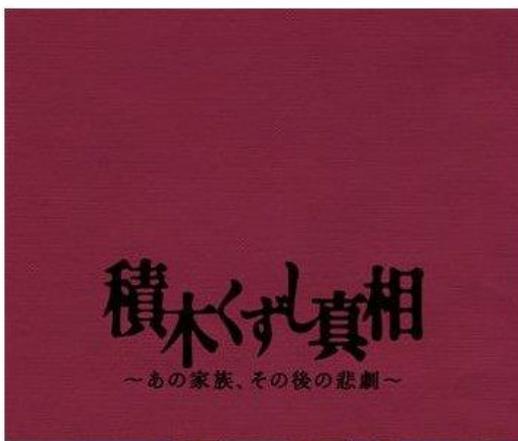


平成18年ドラマ
「積木くずし真相」

「おまえにはね、もっとふさわしい友達がいるはずだろう？」

- ①子どもが選んだ友人が認められていない
- ②親が体裁や都合ばかり気にしている
- ③親が暴力で子どもをコントロールしようとしている

→親が先回りして子どもの考えや行動を認めない
(**過干渉**による承認の欠如)



「ハンパはしたくない」
(原作)

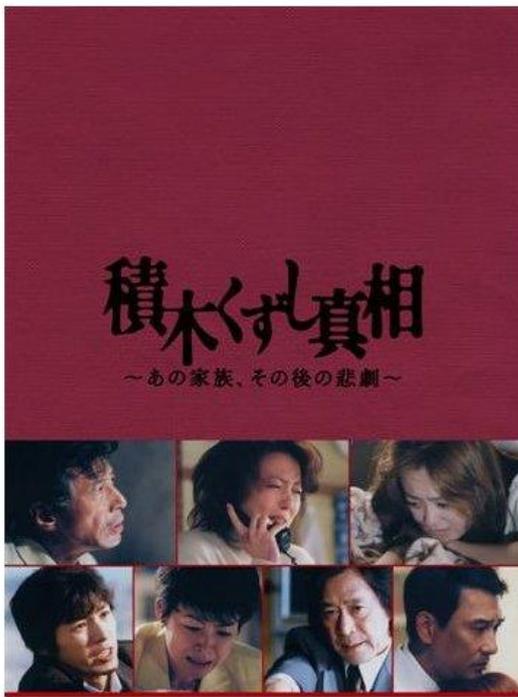
刹那主義

逸脱行動の演出

特徴

もともと自分は大切に
されていない(自己否定)
→自分を大切にしない
(自己評価の低下)
→自分はどうなっても
良い(自己破壊性)
→今が良ければ良い
(刹那主義)

家族が心のよりどころとして当てに
できない(信頼感の欠如)
→家族に見切りを付ける
→一人前(大人)に早くなりたい
→その手段として普通の子には
できない**すごいこと**をやる
→見捨てられても大丈夫な自分を
演出する



平成18年ドラマ
「積木くずし真相」

	刹那主義	逸脱行動の演出
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・見守ることで、本人が大切にされていること、家族が一番安心で安全な場所であることを示す (安全基地) 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人を一人の大人(個人)として認め自由と責任感を持たせる(承認) ・親が何かに一生懸命に取り組んで生き生きと楽しんでいる背中を見せる(モデリング)



「きみは悪くない」

理解者(味方)になること

★親がサポーターになる

保護者として子どもの人生の全責任を負わない。抱え込まない。

本人の自由を尊重して、サポート(援助)に徹する。

10歳までの家族の力とは？

	「母性」	「父性」
特徴	安全基地 (見守り)	しつけ (ほめる+叱る)
子ども	愛されたい(愛情欲求) →自分は大切にされている(共感性、信頼感) →自分を大切にする (自尊心)	期待に応えたい (承認欲求) →ルールの学習や 攻撃性のコントロール (規範意識) →自分は期待に応えている(自信、自尊心)
	→相手を信じ頼る(信頼感)、相手に期待する →相手を大切にする(他者尊敬)	

思春期からの家族の力とは？

- ①親が自分の人生を楽しんでいる(モデリング)
- ②本人を「大人」扱いする(家庭のルール)
- ③親がサポーターになる(安全基地)

参考図書



実際にお困りのケース

親の意向(伝えていること)と本人の受け取り方にギャップが大きくて、コミュニケーションがうまくとれない時はどうしたらいいか。

例えば本人は干渉を嫌がるので、黙って見守っている。尊重しているつもりなのに、本人は、大切にされないと思っている。

★それが反抗期の心理。そこで親が揺れない。親は安全基地として大切にしていることを伝え続ける。

実際にお困りのケース

父親は子供のために中学受験をしたら良いと言っている。本人は中学受験を強制されている、勉強はしたくないと言って、塾を辞めた。

本人が自発的に勉強をやりたくなるまで、待った方がよいのでしょうか？

★親が何かを勉強をして楽しんでいる背中を見せる
(モデリング)。

★親子で中学受験をする理由としない理由をいっしょに考える(大人扱い)。その上で本人がしないと決めたのなら、その決断を支える。

実際にお困りのケース

★ポイント制のほめ方は、損得勘定の考えになってしまう。
バランスが難しいのでは？

★本人の存在は変わらず認めるつつ(安全基地)、ポイント制
という家庭のルールで大人扱いしてバランスを取る。

実際にお困りのケース

娘と考え方が似ている面もあり、時々親子というより、友達に近い接し方になってしまう。母親としての距離感が分からなくなってしまう。

どういう母・娘の関係が良いのでしょうか？

★友達の関係になり困ることは？

思春期の子どもには、大人扱いするために友達(=対等)の関係はありえる。

★親は尊敬されているか？

親が何かに打ち込んでプライドを持っていることが大事
(モデリング)

実際にお困りのケース

娘(中2)の態度、無視、にらむ、物にあたるなどにはどんな態度(注意する、こちらにもにらみかえす、放っておく?など)で接すればよいのでしょうか?

翌日や数時間後には普通に戻るのですか…。

★にらみ返したりせず、見守る(安全基地)。

★ただし、暴力や器物破損などの反社会的行動が出現する場合は、事前に警察通報する必要があることを伝える(家庭のルール)。

実際にお困りのケース

受験してやっと入った中学で順調だったはずが、中2の頃から急に学校に行かなくなりました。毎日、学校に行くか行かないかの喧嘩の日々で、部屋に閉じこもる。どうしたいかわからない日々が続いている。

学校に聞いてみると友達がいなかった。

- ★友達ができなかった経緯を本人から聞き出し、つらさを共感する(安全基地)。
- ★友達作りのためにどうすれば良いかいっしょに考える。
- ★友達との交流だけではない学校の楽しさを伝える(モデリング)。
- ★本人の自主性を尊重する。